

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 多機能型事業所てらす

公表日 令和 7年 12月 20日

利用児童数 13名

回収数 13枚

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	100	0	0	0		今後も継続して活動スペースの確保に努めていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	100	0	0	0	常に2～3人の先生がいるため安心。	今後も継続して適正な職員の配置、人員を確保できるよう努めていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100	0	0	0	名前カードや絵カードでわかるようになっている。	今後もわかりやすく構造化された環境作りに努めるとともに、バリアフリー化を維持しながら情報伝達等への配慮を適切にしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100	0	0	0		今後も継続して清潔で、活動に合わせた空間の中で心地よく過ごせるような環境整備をしていく。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100	0	0	0	運動面や知能面でも、その時に合うような活動をしている。	今後も利用者を理解し、個々の特性等に応じた専門性のある支援を継続していく。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100	0	0	0		今後も継続して支援内容あった支援プログラムを公表していく。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100	0	0	0		今後も継続して利用者を理解した上で、利用者や保護者のニーズや課題を客観的に分析して個別支援計画を作成していく。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100	0	0	0		今後も継続して「児童発達支援ガイドライン」に示される項目、具体的な支援内容を適切に設定していく。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100	0	0	0		今後も「児童発達支援計画」に沿った支援を継続していく。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100	0	0	0	ゲームや工作など、親では思いつかないようなことも行うため助かる。	今後も継続して事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫していく。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	70	15	0	15		利用者や保護者からの要望があれば実現に向けて検討していく。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100	0	0	0		今後も継続して運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明をしていく。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100	0	0	0		今後も「児童発達支援計画」を示しながらの支援内容の説明を継続していく。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	77	15	0	8	紙面ではあるが、研修等はあるかどうか分からない。	利用者や保護者からの要望があれば実現に向けて検討していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	100	0	0	0		今後も継続して利用者の状況を保護者と伝え合うことで利用者の健康や発達の状
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100	0	0	0	半年に一度紙面でもあり、送迎時にも話をしている。	今後も定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援を継続していく。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100	0	0	0	この部分ができず、親も大変だということを理解した上で、支援をしてきている。	今後も継続して共感的支援ができるよう施設内研修等において徹底していく。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	39	7	7	47		利用者や保護者からの要望があれば実現に向けて検討していく。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100	0	0	0	通所していない弟の相談もしている。	今後も利用者や家族からの相談や申入れの場があることを周知・説明するとともに迅速、適切な対応ができるよう継続して体制強化をしていく。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100	0	0	0		今後も利用者や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮を欠かさず継続していく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	47	15	0	38		今後も利用者や保護者に対して、ホームページ・SNS等を通して活動概要等の情報を継続して提供していく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100	0	0	0		今後も継続して個人情報の取扱いには十分留意しながら対応していく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	69	0	0	31		今後も継続して策定している各種マニュアル等について、保護者に周知・説明していくとともに発生を想定した訓練を積極的に実施していく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	46	8	0	46		今後も継続して非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を積極的に実施していく。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100	0	0	0		今後も継続して利用者の安全確保のための計画について周知し、安全確保が十分に行われた上で支援が行われるよう対応していく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100	0	0	0		今後も事故等が発生した際には、速やかな連絡および事故発生時の状況等についての適切な説明をしていく。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100	0	0	0		今後も継続して利用者が安心感をもって通所できるよう体制を整えていく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	84	16	0	0	「毎日行きたい」と話しています。	今後も継続して利用者が楽しみをもって通所できるよう体制を整えていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	100	0	0	0		今後も継続して満足頂ける支援体制を確立できるよう努めていく。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所てらす				公表日	令和 7年 12月 20日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個人活動と集団活動の活動スペースを区分し机・椅子の配置、移動等を考慮しながら工夫して対応している。	国の指定基準を満たしたスペースを確保し、活動スペースとして提供していることから、今後も継続して基準を満たしていく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用人数把握後に職員の休日を決定する等、利用者ファーストで人数に適した職員を配置している。	国の職員配置指定基準を満たした職員数を配置していることから、今後も継続して基準を満たしていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		生活空間は完全バリアフリー化できている。机等の配置や敷マット等により、活動場所と活動目的が明確になるように工夫している。	今後も継続して利用者の特性を考慮しながら利用者が落ち着いて楽しく過ごせるよう配慮していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		就業前後には送迎車両及び建物室内の清掃、消毒、換気について徹底している。常に利用者の安全面を考慮して整理整頓を徹底している。	今後も継続して、清潔で、利用者の活動に合わせた空間作りをすることで、利用者が心地よく過ごせる環境になるよう配慮していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の訓練室や相談室を設置している。	今後も継続して、個別の訓練室や相談室を有効に活用する。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎月一回、職員全員参加の下、個別支援会議(ミーティング)を実施している。	今後も、職員全員参加の下、毎月一回個別支援会議(ミーティング)を継続して実施していく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		送迎時の会話や連絡ノート等により保護者の意向等を把握する機会を常に設けており、その内容を業務改善につなげている。	今後も、送迎時の会話や連絡ノート等により保護者の意向等を把握する機会を常に設け、その内容を精査し業務改善につなげていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		朝、昼、夕の3回、職員が集合し活動の確認と職員の意見等を出し合い、共通理解して業務を把握する機会を設けている。	今後も継続して全職員が集合し、活動の確認と意見等を出し合い、共通理解した上で業務を遂行していく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者による外部評価は行っていない。愛媛県の指導監査時の意見等により業務改善につなげている。	第三者による外部評価の予定はないが、愛媛県の指導監査時のご意見等を伺いながら業務改善につなげていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		資格取得のための研修会や外部講師によるオンライン研修、職場内研修会等を実施して職員の資質向上を図っている。	今後も継続して、資格取得研修会や外部講師によるオンライン研修への参加、職場内研修会等の実施によって職員の資質向上を図っていく。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		作成された個別支援計画書を直接手渡ししながら保護者に説明する時間を頂いている。	今後も継続して個別支援計画書を直接手渡ししながら保護者に丁寧な説明をさせて頂く。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		個々のアセスメントを適切に行い、評価表を作成している。保護者の希望アンケート、電話や直接会話により、ニーズの聞き取りを行いながら個別支援計画書を作成している。	今後も継続して、個々のアセスメントを適切に行い、評価表を作成していく。保護者の希望アンケート、電話や直接会話によりニーズの聞き取りを行いながら個別支援計画書を作成していく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		全職員参加による個別支援会議を毎月開催している。全職員が共通理解の下で意見交換をし利用者の最善の利益を考慮した検討を行っている。	今後も継続して全職員参加による個別支援会議を毎月開催する。全職員が共通理解の下で意見交換をし、利用者の最善の利益を考慮した検討を行っていく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		全職員参加による個別支援会議を毎月開催している。全職員で情報を共有して、個別支援計画書に基づいた支援を行っている。	今後も継続して全職員参加による個別支援会議を毎月開催し、全職員で情報を共有して、個別支援計画書に基づいた支援を行っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		適応行動の状況をフォーマルなアセスメントやインフォーマルなアセスメントを併用しながら対応している。	今後も適応行動の状況をフォーマルなアセスメントやインフォーマルなアセスメントを併用しながら継続して対応していく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		全職員参加による個別支援会議を毎月開催し五領域各々のねらい及び支援内容も踏まえながら、必要な項目、具体的な支援内容が設定されているかを全職員で検討、共有している。	今後も継続して全職員参加による個別支援会議を毎月開催し、五領域各々のねらい及び支援内容も踏まえながら、必要な項目、具体的な支援内容が設定されているかを全職員で検討、共有していく。	

の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月、事前に活動プログラム表を作成し保護者に手渡ししている。立案は担当者がするがその後全職員で検討した後印刷配布し、プログラム終了後の反省会を実施している。	今後も継続して、毎月事前に活動プログラム表を作成し保護者に手渡す。立案したプログラムを全職員で検討しながらより良いものを作成していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		過去の内容を検討しながら曜日による活動の片寄りがないように調整している。時には、利用者の希望を聞き入れながら立案している。	今後も継続して、反省会を実施しながら曜日による活動の片寄りがなくなるよう調整していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		利用人数や利用者によって個別活動や集団活動を選択する等、工夫しながら計画的に支援している。	今後も継続して、利用人数や利用者によって個別活動や集団活動を選択する等、工夫しながら計画的に支援していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		職員全員で朝礼、昼礼を実施し、その日行われる支援内容や役割分担について確認している。	今後も継続して朝礼、昼礼を実施し、その日の支援内容や役割分担について確認する等、チームで連携して支援していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		職員全員で終礼を実施し、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	今後も継続して職員全員で終礼を実施し、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援に関して各個人のカルテに記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	今後も継続して日々の支援に関して各個人のカルテに記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		毎月1回、定期的にモニタリングを行い、計画の見直しの必要性を判断し、必要場合は適切に見直しを行っている。	今後も継続して定期的にモニタリングを行い計画の見直しの必要性を判断し、必要場合は適切に見直しを行っていく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達管理責任者、もしくは利用者の担当職員が参加している。	今後も継続して児童発達管理責任者、もしくは利用者の担当職員が参加する。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		主治医、各市町の障害福祉担当者、学校との連携を密にしながら支援体制を整えている。	今後も継続して主治医、各市町の障害福祉担当者、学校との連携を密にしながら支援体制を強化していく。
関係機関や保護者との連携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		各関係機関のホームページやメールを活用しながら情報共有、連絡調整を適切に行っている。	今後も継続して各関係機関のホームページやメールを活用しながら情報共有、連絡調整を適切に行っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じて、就学前の保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等と情報共有と相互理解に努めている。	今後も継続して就学前の保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等と情報共有と相互理解できるよう連絡を密にしている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		地域の児童発達支援センターとの連携を図り必要に応じて助言や研修を受ける機会を設定している。	今後も継続して地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じて助言や研修を受ける機会を設けていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		関連施設間での交流活動を実施しており、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の子どもの活動についてはほぼない。	今後も継続して関連施設間での交流活動を実施する予定であり、保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や地域の子どもの活動については、要望の有無によって検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		利用日には、送迎時の会話によって状況を保護者と伝え合い、利用者の発達状況や課題について共通理解を持つようになっている。	今後も継続して送迎時の会話によって状況を保護者と伝え合い、利用者の発達状況や課題について共通理解を持つよう心掛けていく。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレント・トレーニングや家族研修会等の開催には至っていないが、保護者との直接会話を通じて情報交換するとともに相談にのったり助言したりの対応はいる。	要望の有無により、ペアレント・トレーニングや家族研修会等の開催は検討していく。保護者との直接会話を通じて情報交換するとともに相談、助言の対応は継続していく。

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際に丁寧に説明をしている。急な支援プログラムの変更や利用者負担等についてはその都度文書や口頭で丁寧に説明している。	今後も継続して契約の際に丁寧に説明をしていく。急な支援プログラムの変更や利用者負担等についてもその都度文書や口頭で丁寧に説明していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点も踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		事前にアンケートを配布し、利用者や保護者の意思や意向を確認している。	今後も継続して事前にアンケートを配布し、利用者や保護者の意思や意向を確認していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		必ず対面で支援内容の説明を行い、保護者が納得した上でサインを頂いてから副書を手渡している。	今後も継続して対面で支援内容の説明を行い保護者が納得した上でサインを頂いてから副書を手渡していく。
	38	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者から悩み等に対する相談があった場合は適切に面談をして必要な助言と支援を行っている。	今後も継続して保護者から悩み等に対する相談があった場合は適切に面談をして必要な助言と支援を行っていく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		現在のところ、保護者会や兄弟姉妹の交流の場等の開催希望が一件もないことから特には考慮していないが、保護者から交流機会が欲しい等の要望があった際には検討する用意はしている。	今後は、保護者から交流機会が欲しい等の要望があった際には検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		利用者や保護者から苦情があった場合は、職員間で問題点、原因と結果の因果関係を検討し、マニュアルに基づいてミーティングを行い即刻対応方針を決定し、苦情に対する謝罪や修正案の提示をするようにしている。	今後も継続して利用者や保護者から苦情があった場合は、職員間で問題点、原因と結果の因果関係を検討し、マニュアルに基づいてミーティングを行い即刻対応方針を決定し、苦情に対する謝罪や修正案の提示していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期的にHPやSNS等を活用することにより、活動概要を利用者や保護者に対して発信している。	今後も継続して定期的にHPやSNS等を活用し活動概要を利用者や保護者に対して発信していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		契約時に個人情報の取り扱いについて説明をし、取り扱いについては管理の徹底に努めている。	今後も継続して契約時に個人情報の取り扱いについて説明をし、取り扱いについては管理の徹底に努めていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚支援（絵カードやホワイトボード、写真等）を用いての情報伝達を行っている。	今後も継続して視覚支援（絵カードやホワイトボード、写真等）を用いての情報伝達を行っていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		現状、地域に向けての発信には至っていないため、今後必要に応じて地域に開かれた事業運営ができるよう努力していく。	今後必要に応じて地域に開かれた事業運営ができるよう努力していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、出入口付近に掲示して周知するとともに、発生を想定した訓練を年2回実施している。	今後も策定されている各種マニュアルを出入口付近に掲示して周知するとともに、発生を想定した訓練を年2回継続して実施していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		消防計画書等を策定して、非常災害の発生に備え定期的に避難、救出その他必要な訓練を定期的に行っている。	今後も継続して消防計画書等を更新して、非常災害の発生に備え定期的に避難、救出その他必要な訓練を定期的に行っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に服薬や予防接種、てんかん発作等の利用者情報を聴取するとともに毎年服薬等のアンケートを配布し把握に努めている。	今後も継続して契約時に服薬や予防接種、てんかん発作等の利用者情報を聴取するとともに毎年服薬等のアンケートを配布し把握に努めていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書が提出されている利用者については、指示書に基づいた対応をしている。	今後も継続して医師の指示書が提出されている利用者については、指示書に基づいた対応をしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		建物は完全バリアフリー化できており、整理整頓によって通路の確保等も維持されている。安全計画に沿った安全管理に必要な研修や訓練、その他必要に応じて措置を講じる等、安全管理には十分配慮している。	今後も継続して整理整頓により通路の確保等を維持していくとともに、安全計画に沿った安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理に配慮していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画に基づく取組について家族等との連携が図られるよう、丁寧な説明をするよう心掛け家族等へ周知している。	今後も継続して安全計画に基づく取組について家族等との連携が図られるよう、丁寧な説明をしながらご家族に周知していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事案が発生した場合は、即刻書類を作成後、事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしている。	今後もヒヤリハット事案が発生した場合は、即刻書類を作成後事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討を重ねていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待を未然に防ぐため、全職員に対して職場内研修を実施したり、外部講師による講習会等に参加したりしている。	今後も継続して虐待を未然に防ぐため、全職員に対して職場内研修の実施、外部講師による講習会等への参加機会を確保していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		やむを得ず身体拘束を行う場合についての対応については重要事項説明書に記載している。	やむを得ず身体拘束を行う場合についての対応については、今後も継続して重要事項説明書等に記載した上で、理解を得られるよう十分に説明していく。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所てらす		
○保護者評価実施期間	令和 7年 11月 1日		～ 令和 7年 12月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 10日		～ 令和 7年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 12月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設建物は令和5年2月に建築された新築である。出入口はもちろんのこと、上階との昇降については、設置されたエレベーターの利用が可能であり、利用者様個々の障害や特性に対応できるよう完全バリアフリー化されている。	毎日就業前と就業後には清掃・消毒を実施し、清潔な環境を維持して利用者様をお迎えできるよう心掛けている。また、通路に不要な物品を置かない等、整理整頓に心掛け、災害時の早期避難・安全管理に繋がるよう徹底している。	現状を維持しながら、更に施設の充実と職員教育を徹底し、利用者様に安心して利用して頂ける環境作りを徹底していく。
2	言語聴覚士1名が常駐しており、個室(訓練室)において、マンツーマン指導を行っている。	利用者様の個々の特性を理解して的確な言語訓練を計画して実施している。また、活用教材がマンネリ化しないように、訓練内容についても適宜情報収集しながら創意工夫して実施している。	現状を維持しながら、更に職員の能力向上及び活用教材を充実させ、利用者様が困っておられる事案に対して真摯に向き合い、希望に沿った言語訓練が提供できるような環境作りを徹底していく。
3	口頭での相談・助言・後方介助支援・誘導支援等に加え、視覚的支援を重視した教材を活用しながら利用者様が自らの意志で個人活動や集団活動を楽しめるよう、創意工夫した支援活動を行っている。	園や家庭と連携を取りながら、TEACCHプログラムを参考として構造化を取り入れている。 衝立等で仕切るのは難しいが、遊びスペース、制作スペース、集団活動スペース等を物理的に構造化している。 個々にあったスケジュールを作成し滞在中の予定を伝えながら、できるだけ自分自身の判断で動けるよう誘導する等、時間に対する構造化を図っている。 制作作業等では、事前に作業の要領等を記載した作業手順書を作成し聴覚だけでなく視覚的にも支援する等、ワークシステムを使用して構造化を図っている。 遊びの玩具等はバックヤードで保管しており、使用したい玩具を写真カードの中から選択して要求されたものを提供する等の環境調整をしてコミュニケーションの構造化を図っている。	保育園や幼稚園、相談員その他関係各機関との連携をより強化しながら密に情報交換し、利用者様にとってより良い支援に繋がるよう、柔軟に新しい手法を取り入れながら充実した活動を継続させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設周辺の地域住民の皆さんとの関わりが薄く、災害時等の協力体制に不安が残る。	施設のイベントを通して、施設周辺の地域住民の皆さんとの交流を図っているが、連携は十分ではない。	今後も継続して行い、連携を強化していく。
2	利用者様やそのご家族様相互の情報交換や意見交換交流・親睦の場を提供するに至っていない。	利用者様ご家族様からの要望や要請がなく、必要性を感じられていないご家族が大半であったため、現在のところ立案に至っていない。	利用者様ご家族様から要望や要請が出し易い環境を整えながら、出てきた意見に耳を傾け可能な限り前向きな検討、対応をしていく。
3	施設が住宅地に囲まれていること、前面道路の幅員が狭く車の通行量も多いことから、安全面を考慮して思い切った屋外活動ができない。	施設の周辺環境を変えることはできないことから、現在の立地環境を踏まえて創意工夫した企画立案の下での活動が求められる。	屋内ホールでの活動はもちろんのこと、近隣の公園やグラウンド、公共施設等を活用しながら、安全面を考慮しつつ、充実した活動ができるよう情報交換しながら企画立案していく。